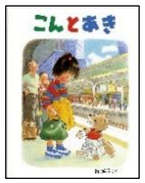
たんぽぽコ～ナ～

今月のおすすめ絵本

「あつい あつい」

垂石 眞子 作

「あつい、あつい」と、ペンギンが涼しい日陰を見つけてひとやすみ。でも、その日陰はなんとアザラシの影！二匹は涼しい場所を探しに出かけます。その先で見つけた場所とは？暑そうな表情と、涼んでほっとした表情の違いも楽しい!!



「こんとあき」

林　明子 作

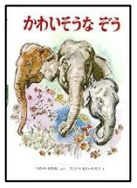
こんは、きつねのぬいぐるみ。あきが生まれた時からいつもそばで成長を見守ってきました。けれど、長い年月が過ぎるうちに、ほころびができてしまいます。こんを直してもらうため、あきと一緒におばあちゃんの家へ向かいます。物を大切にする心や家族の愛情が優しく描かれた、心温まる一冊です。

★絵本作家の林 明子さんが７月に逝去されました。長年、たくさんの子ども達に愛され続けてきた、林 明子さんの温かな世界をこれからも楽しんでいきたいと思います。

「へいわとせんそう」

谷川 俊太郎 作
Noritake 絵

平和な日常と戦争の情景を、身近な人や物を通し見比べながら描かれています。敵も味方も関係なく、朝を迎えることや赤ちゃんが生まれることも、本当はみんな同じ。当たり前の日常や大切な命が戦争によって失われてしまう悲しさを、子ども達にも分かりやすく伝えています。



「かわいそうなぞう」

っちや ゆきお 作
たけべ もといちろう絵

戦争中、上野動物園で実際にあった悲しいお話です。ぞうと飼育員との深い絆や、戦争によって失われた大切な命が描かれています。読みながら、辛く悲しくて切なくなりますが、戦争の怖さ、平和や命の大切さが心に深く響きます。毎年この時期に、子ども達と一緒に大切に読み継いでいきたい絵本です。